

### 新日鉄住金での体験

今回の新日鉄住金の訪問では、普段はできない貴重な体験をすることができました。特に、班で行ったディスカッションが心に残りました。このような話し合いはしたことがなく、最初のうちは緊張していましたが、みんなで意見を出し合って、協力して班の意見をまとめることができました。

また、高校までは幅広く、いろいろなことを体験すべきだが、大学は狭く、深く学ぶところであるため、本来は勉強一筋でやっていかなければならないということを教わりました。そのような考え方もあるのだな、と思いました。

そして、最初に見た映像もすごかったです。熱せられて赤くなった鉄がとても美しいと思いました。実際に工場の中にいるような感じで、工程がよくわかりました。

この会社は、世界で二番目の生産量を誇ると聞いて、私たちは本当にすごいところに来たのだな、と感じました。また、この会社の社員の方は皆さん理系なのかな、と思っていましたが、文系の方も活躍されているということもわかりました。

このようなすばらしい会社で、貴重な経験をすることができ、本当に良かったです。お忙しい中、私たちにこのような機会を与えてくださったことに感謝しています。ここで学んだことを、これからの生活にたくさん生かしていきたいです。

### 動物検疫所を訪れて

私たちの班は、今回の企業大学訪問で、動物検疫所羽田空港支所を訪問しました。簡単に言うと、動物検疫所は、海外から輸入される動物や畜産物の検査を行い、家畜の伝染病が日本に入ってくることを防ぐための場所です。動物検疫所を訪問することにしたのは、獣医師というと動物病院で働いているイメージしかなく、他に仕事はあるのかと調べていくうちに、動物検疫所で働く家畜防疫官という方たちがいることを知り、興味を持ったからです。

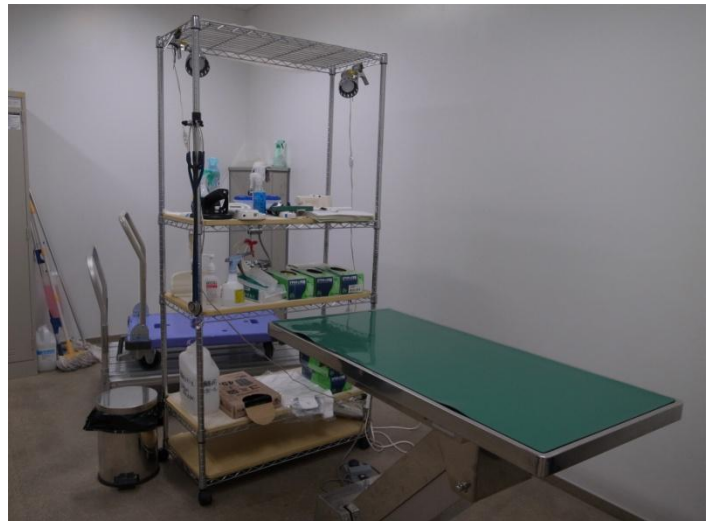
訪問したい場所が決まり、電話でアポイントメントを取ることになりました。知らない人に電話をかけたことはあまりなかったので、とても緊張しました。でも、すぐに訪問の許可をいただけたので、うれしかったです。

訪問当日は、最初に動物検疫が行われているところを見学しながら説明を受けました。そこには、飛行機から降ろされた荷物のおいにおいを嗅いでいる犬がいました。この犬は検疫探知犬といい、荷物の中にある肉や肉製品を見つけてハンドラーに知らせることで、検査を受けていない肉や肉製品が国内に持ち込まれるのを防いでいます。しかし、犬が苦手な人や、宗教上の理由で犬は不浄のものだと考える人もいます。そのため、小さくてかわいいビーグルという犬を用いたり、ハンドラーに知らせるときは吠えるのではなく、おすわりをさせるようにしたりして、なるべく人に脅威を与えないような工夫をしているそうです。このような工夫がされていることに感心しました。

次に、動物検疫についてのDVDを見て、その後職員の方々に、事前に考えておいた質問をしました。若い獣医師の方が四人も来てくださったので、たくさんお話を聞くことができました。その中で特に印象に残ったことは、仕事をしていて大変なことは何ですか、と質問した時の答えです。それは、新人とベテランの差があってはならないことだそうです。自分の知識が無いことで相手に不利益を与えることはあってはならないことです。また、電話対応のときなどは、自分が農林水産省を代表しているという気持ちを持っているのだとおっしゃっていました。やはり社会人の責任は大きいのだと思いました。

今回は、このようにとても貴重な経験をすることができて、本当に良かったです。職員の方々が丁寧に対応してくださったおかげで、たくさんの方が学べ、将来の参考になりました。最後に、動物検疫所からのお願いがあります。

アジアをはじめ世界各国で、口蹄疫や鳥インフルエンザなどの伝染病が発生しており、無意識にこれらの病気を国内に持ち込む可能性がありますので次のことに御留意願います。



①有効な検査証明書のないハム、ソーセー

ジ、ビーフジャーキーなどの肉製品や皮や角などの畜産物は、日本へ持ち込むことができません。

②入国前に海外で、牛、豚、鶏などの家畜に触れたり、家畜がいる場所に行ったりすることは、できるだけ避けてください。やむを得ず、家畜に触れたり、家畜がいる場所を訪問したりしたときは、税関検査前に動物検疫カウンターまでお申し出ください。

これは、なるべく多くの人に広めてくださいと職員の方に言われたことです。私の文章を最後まで読んでくださった皆さん、海外へ行かれるときはぜひこのことを思い出して、日本に家畜の伝染病を持ち込まないよう、ご協力をお願いします。

### 先輩との懇談会

私は、最初に一橋大学の先輩のお話を聞きました。その中で一番印象に残ったことは、進路選択のとき、大学を選ぶのではなく、学部を選ぶということ、また、偏差値で選ぶのではなく、その大学で何をしたいのかをはっきりさせて選ぶということです。確かにその通りだと思いました。今のうちから情報収集をしっかりと、よく考えて進路選択をしたいです。

次の先輩は、研究が大好きなようで、ほとんど自分がやっている研究の話をされていました。私も、自分の研究のことなら、ずっと語っていただけるくらいの人になれるように頑張らなくてはと思いました。

三人目は、東京医科歯科大学の先輩でした。

この大学は、病院に来る患者さんがとても多く、歯学部では、学生が治療をすることもあるそうです。学生が治療をすることができるなんて、すごいと思いました。そしてこの先輩も、大学は偏差値が高いからといっていいわけではないと言っていました。やはり自分の目でしっかりと見極めることがとても大切なのだとわかりました。

このように、先輩のお話をたくさん聞くことができ、貴重な体験になりました。これからの生活にどんどん生かしていきたいです。

お忙しい中、私たちのためにたくさんの先輩方が来てくださったことに感謝しています。

### 東京大学オープンキャンパス

東京大学のオープンキャンパスで、私は午前中、女子学生コースに参加しました。

最初に、工学部、農学部、医学部のそれぞれの学生さんのプレゼンテーションを聞きました。工学部の学生さんは、工学部は分野が広く、何でもできるのが良いところだと話していました。生物の研究をしている研究室もあるという話でした。私はそれまで工学部にあまり興味がありませんでしたが、この話を聞いて、少し興味がわきました。農学部の学生さんは、東京大学は研究費が日本一多く、研究がしやすい環境だということを話していました。もし、将来は研究の道に進みたいと思うようになったら、そのような環境は強みになるだろうと思いました。

次に、学生さんが学生生活を語る、パネルディスカッションというものがありました。東京大学は、女子が非常に少なく、一年生のときにクラスに女子が自分一人しかいなかったという方もいました。でも、女子は少ないなりに、女子だけのイベントを開くなどして、絆を深めているそうです。

午後は、キャンパス内を見て回りました。

歴史を感じさせる建物が数多くありました。

また、東京大学は勉強ばかりしている人の集まりだと思っていたのですが、運動部の活動も盛んなのだそうです。まるで二高のようだと思いました。

このように、遠い存在だった東京大学のことを少し知ることができました。実際に見に行ってみると印象がだいぶ変わるのだと感じました。もっといろいろな大学に行ってみて、じっくりと将来のことを考えたいです。